

問四 → 漢文（４５点）
読み書き、返り点・書き下し文、現代語訳、内容説明など基本的な出題。

数学

小樽商科大学の個別試験・数学はとても解きやすい。教科書の例題を押さえれば十分に対応できます。2017年2月の試験で200点満点を取った生徒がいました。

小樽商大の個別試験は国・数・英の各200点でそのうち最も低い点数の教科を100点満点に換算し合計500点満点とする。現状として、英語はほとんど差が付かない。それに対して国・数は差が付く。よって、国語＋数学＞200点（400点満点）となれば合格圏内に入ります。

小樽商大を受験する生徒は数学が苦手な生徒が多い。だから採点は甘めになります。しかし、書いていない答案は甘くしようがありません。穴埋め問題も出題されますが、マーク式のように完全解答ではありません。提出する下の記述欄のすべてが評価対象となるので、しっかりと書きたい。特に書きたいのは「図形」、「グラフ」です。受験生は図形を書きたがらない。特に難問であればあるほど図形だけでも大きな部分点になるのに、もったいない！

- 図形を書け 記述欄のすべてが採点対象となる。特に「図形」をしっかりと書きたい
- 解きやすい問題 数学が得意な生徒は200点満点を狙える試験。教科書の例題を確実に押さえれば高得点が狙える。
- 出題分野はまんべんなく 難易度は高くない代わりに、出題範囲は多岐に渡る。苦手分野から逃げない姿勢が大切。



北海道教育大学成績開示データ SAPIX YOZEMI GROUP			
合格者の開示得点平均点			
	英 語	国 語	数 学
満点	200	200	200
2017	137.43	119.14	119.75
2016	116.87	104.20	121.11
札幌校			
	英 語	国 語	数 学
2017	143.17	123.20	
2016	115.10		115.57
旭川校			
	英 語	国 語	数 学
2017		109.00	108.67
2016	120.40		

※釧路校及び空欄については開示データ不足のため未掲載

国語（９０分）

- ・大問が一題の中に設問が十題で200点満点。現代文150点（小論的問題50点、文学史20点、一般的な問題80点の目安で出題されている。）残りの50点が文中の和歌や漢詩、俳句にからんだ設問になっている。300字程度の小論文の練習が必要。文学史は、一問一答形式ではなく流れを文章で説明できる力が必要。

数学

2年前から始まった北海道教育大学の個別試験・数学。過去問題からこれからの対策を考えるには資料不足ですが、その2回の問題をみるとかなり難しい。北海道大学と同じくらしい難易度といってよいです。ただし、受験する層は比較的数学を苦手とする生徒が多いとい

うのが現状。200点満点中100点取れば合格圏内に入ります。**1**の小問集合は受験者のほ

とんどが完答しています。よって**2**以降の大問が合否を決めるといってよいでしょう。

北海道教育大学は「証明問題を出題する!」と宣言しています。特に数学ⅡBの公式・定理の証明をできるようにしておきたい。センター試験後に教科書のすべての公式・定理を証明できるようにすること。出題されるとわかっているのに、それすらやっていない受験生がいました。もったいない!

中堅国公立大学の受験生は「指数・対数」を苦手とする生徒が多い。特にlogの計算がスラスラできない。この範囲は練習量で伸ばせます。ここを強化すれば最後まで解ける問題が目立ちます。

難しい問題でも白紙答案は避けたいものです。白紙答案は合格の意思なしとみなされます。例えば「加法定理 $\cos(\alpha + \beta) = \cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta$ を用いて」と書いてあるだけで、部分点はあります。

- 公式類の証明 特に数学ⅡBの公式を証明できるように。（数学Ⅱ「点と直線の距離」が出るかも）
- 指数・対数の計算力 ここを強化すると、最後まで解ける問題が目立つ。差がつくところ。
- 図形＋三角関数 2年連続で出題されている。相似よりも正弦・余弦定理が出るか。

2校の数学をまとめてみると！

現在、3年生の授業ではセンター試験対策として模擬問題を扱っています。その中で質問にくる生徒の答案を見ると、2次関数の問題なのにそのグラフを描いていないものがあります。「グラフを描かないでどうやって解答を考えられるのか。」疑問であり、心配になります。両大学とも、数学に「うまい答案」は少ないです。数学を苦手とする生徒が多い中、おそらくセンター試験対策で精一杯なのでしょう。そして白紙答案が多い。だから書けば部分点はもらえます。合格したいという意思があるなら白紙答案は避けること。採点者は「正答に至らなくても、グラフや図形から「この生徒はこのように考えたのだ。」と評価をすることがで

